

あ

ぎ

な

青森県立つくしが丘病院 第136号

看護部次長として思うこと



看護部次長 柿崎 紀子

皆さん、こんにちは。

昨年三月と九月の引っ越しを全職員一丸となつて無事に終え、ホツと一息つくかのよう
に、病院中庭に植えられている楓の木々も新
たな葉を茂らせています。

さて、昨年四月、思いがけず看護部次長に
任命され、一年が過ぎました。昨年を振り返
りますと、当院で病棟班長として四年間の経
験がありましたが、外来・病棟運営が滞りな
く行われるためには、次長にこれほど雑務が
多いということに驚いたというのが第一印象
です。

院内においては、看護職員の貸与物品の取
りまとめや鍵の管理、会議録や勤務表・退院
した患者さんの看護カルテ点検、院外に関す
ることでは、臨地実習を受け入れるための各

学校との連絡調整等がありました。それに加
え、すぐに発生したのが新型インフルエンザ
です。診療部・運営室と連携し、発生時のマ
ニユアル作りに関わることができました。幸
いにも患者さんが罹患することなく過ぎまし
たが、今後も継続して感染対策を行っていき
ます。

そのような中、さまざまな会議に出席する
ことで、看護部の果たすべき役割について、
より深く考えるようになりました。看護部の
理念のひとつである「患者中心の看護を実践
する」ために、自分自身どのようなサポート
ができるのだろうかと考え、昨年度、病棟全看
護職員の協力を得てタイムスタディによる業
務量調査を行いました。今年度は、その結果
を踏まえ、看護の質向上に努めていきたいと
思っております。

今後は、看護部次長として、看護部の方針
が看護職員に醸成されるための方法を模索し
ながら、一歩ずつ前進していきたいと考えて
おりますので、よろしくお願い致します。

「検査室紹介」

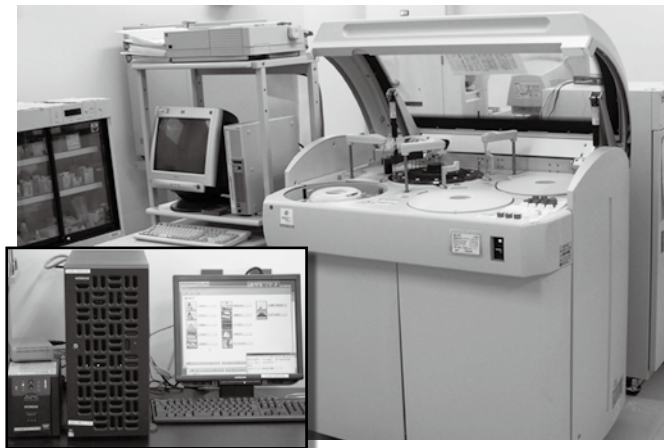
検査主査 永澤 茂行

緑の木々に囲まれ、四季の変化がみられ、患者さんの精神的治療に適した環境の中に、つくしが丘病院があります。

当院検査室は生理検査（脳波・心電図）を主体として運営され、最新のデジタル脳波計（写真1）が昨年度導入され、患者さんの精神的疾患の診断・治療に対応しております。

また院内検査器機は生化学分析装置（写真2）、血液ガス分析装置、電解質分析装置、血球自動分析装置、一般検査分析装置が日立検査システムの基に稼働し、患者さんの検体検査を完全自動分析化することで精度管理を実施しております。

今年度から病院全体でオーダーリングシステムの運用が開始され、検査室ではさらにインターネット回線を使用した検査システムでの検査業務の実用化が検討されています。



▲写真3 日立検査システム (Labostream)



▲写真1 デジタル脳波計 (NIHONKODEN Neurofax)

▲写真2 生化学分析装置 (日立 7080)

精神科のことば

⑬ 解離と転換

心理的な原因によって多彩な精神・身体症状が現れる状態について、従来はヒステリーと呼ばれていましたが、最近の分類や診断基準では、その多くは解離性障害あるいは転換性障害と呼ばれるようになってきています。

解離性障害のうち、運動や感覚面の障害が主にみられるものを転換性障害とする分類（*注1ICD・10など）と、転換性障害を解離性障害とは別に身体表現性障害の中に分類しているもの（*注2DSM・IV・TRなど）があります。これらの分類は今後、微妙に改定されていく可能性があるといえます。

解離（症状）には、通常の物忘れでは説明がつかない解離性健忘、急に失踪しての間などの記憶がない解離性遁走、別の人格が現れる多重人格などがあり、転換（症状）には、身体的要因に乏しい失立・失歩、失声、麻痺や振戦などの運動障害、けいれん、知覚麻痺などがあります。

（堀内雅之）

*注1 ICD-10：国際疾病分類 第十版

*注2 DSM-IV-TR：米国精神医学会精神障害分類 第四版改訂版

病気のミニ知識

『認知症の予防』

副院長 藤田康文

仕事柄「認知症」の話を一般の方にすることも多いのですが、「認知症の予防法」を尋ねられると少し困ってしまいます。何故なら確実な予防法は存在しないからです。残念ながら過去に有名になった「イチョウ・エキス」や「ビタミンE」なども、大規模な研究結果では明確な効果は証明されませんでした。これが例えば脳卒中や心筋梗塞の予防なら、きちんと健康診断を受けて動脈硬化の原因となるような病気がある場合には、運動・食事・薬などの治療や生活指導を本気で実践すれば、かなりの確率で予防できると思います。認知症の場合はそれ程確実な予防法は無いのですが、最近の研究成果から有効と思われるものを挙げてみます。

まず脳卒中の予防は、一番有効です。近年は小さな血管が詰まって、小さな梗塞が脳内に多数できる「多発性脳梗塞」が多く見られ、この要因として動脈硬化を悪化させる高血圧・糖尿病・高脂血症・心臓病などの病気や、喫煙などの生活習慣が知られていま



す。つまり煙草を止め、これらの病気をきちんと治療すれば、脳卒中による認知症(脳血管性認知症)はかなり予防できると思います。また最近の研究では、脳卒中を起したところのある人は、アルツハイマー型の認知症にもなりやすいことが分かってきました。前記の脳卒中を起す要因を三つ以上持っている人は、持っている人と比較すると三倍以上もアルツハイマーになりやすいとの研究成果が発表されています。つまり脳卒中の予防は、両方の認知症を予防する「一石二鳥」の方法なのです。

また高齢になっても他人とよく付き合う人は、認知症になりにくいと言われます。最近流行の「脳ドリル」も悪くはないですが、人間は他人とお話をしたります時に、一番脳を使っているのです。家に引きこもらず、自分のペースで人付き合いを続けることが、認知症の予防に有効です。このためには体が達者であることも大事ですが、耳(聴力)も非常に重要です。耳が遠くなると他人

との会話が億劫になり、相手もお話を遠慮するようになります。こうして他人と付き合い合う・他人とお話をする機会が減ると、認知症になる確率は相当高くなります。私も診察で、「難聴を放っておき、家族ともほとんど会話しなくなり、気が付いたら重症の認知症になっていた」という残念なケースを時々見ます。ちなみに認知症になってから、御家族があわてて補聴器を付けてあげても、うまく行かないことが多いのです。認知症の方は新しいことに適応するのが難しく、補聴器の機械音などを嫌って付けようとしないうことが多いのです。また認知症が重症になると、そもそも何故補聴器を付けているのかを忘れてしまい、捨ててしまうことがあります。高齢の方に限らず、「耳が遠くなった」と感じたら、すぐに治療をして聴力を保つことをお勧めします。



ニューフェイス紹介

C病棟

畑井 亮平

新卒でつくしが丘病院勤務となりました。わからないことばかりですが、頑張りますので、よろしくお願ひします。

D病棟

長崎 智裕

今年、新採用で配属されてきました長崎智裕です。よろしくお願ひします。

回	開催月日	テーマ
1	5月28日 (金)	精神疾患の概要 (実施済み)
2	7月23日 (金)	統合失調症となる時 (実施済み)
3	9月24日 (金)	精神疾患のお薬
4	11月26日 (金)	社会資源について
5	1月28日 (金)	テーマ未定
6	3月4日 (金)	テーマ未定

平成二十二年度
家族教室

ご家族の投稿(川柳)

今回は患者さんのご家族が、当院「すぎな」に投稿された川柳の一部をご紹介します。テーマは「うつ」となっており、患者さんの病気に心を痛め、必死になって一緒に回復を目指す心情が、よく表現されていると思います。

生きて地獄の 耳を流れる アベマリア

底へ底へと 家族を連れて 病む手毬

帰りたい 病半ばの シクラメン

晒した妻の 後ろ姿は ささめゆき

引き止めた いのちに続く 冬の景

